

算数科調査研究報告書

書名 観点	東京書籍		新しい算数			
	1 3 1	2 3 1	3 3 1	4 3 1	5 3 1	6 3 1
	1 3 2	2 3 2	3 3 2	4 3 2	5 3 2	
取 扱 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数と計算については、棚にしまうじょうろの合計の数を求めたり、水槽に残った金魚の数を求めたりする活動を通して、整数の加法や減法の意味を理解できるようになっている。また、乗り物に乗っている人数を求めたり、式に合わせておはじきを並べたりする活動を通して、整数の乗法の意味、その計算の仕方を理解できるようになっている。 ○ 量と測定については、図形を移動して面積を求める、図形の高さを考えたりする活動や、直方体と四角柱の体積の求め方を比べたり、円柱を変形して体積を求めたりする活動を通して、三角形や平行四辺形などの面積の求め方や、角柱や円柱の体積の求め方を理解できるようになっている。 ○ 図形については、円周上の3点を結んで色々な三角形をかき、辺の長さに注目して仲間分けしたりする活動や、四角形を平行の組数で仲間分けしたり、身の回りの垂直や平行を探したりする活動を通して、二等辺三角形や正三角形、平行四辺形などの性質について理解できるようになっている。 ○ 数量関係については、都道府県別のみかんの収穫量を比べたり、アンケート結果をグラフで表したりする活動や、卵の重さを比べたり、重いサツマイモがよく採れた班を調べたりする活動を通して、円グラフ、帯グラフの読み方や書き方、資料の平均や柱状グラフについて理解できるようになっている。 ○ 知識・理解の習得、活用、探究については、「どんな数が読めるかな？」や「おもしろ問題にチャレンジ」のページなどを設け、補充的・発展的な学習ができるように工夫されている。例えば、学校にある靴箱の数について、4位数までの表し方を扱うなど補充的な学習、除法の筆算について、4位数の計算を扱うなどの発展的な学習が取り扱われている。 					
内 容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成については、車の色を塗りながら数を数えていく問題、何時何分を求める問題など児童の生活経験や興味・関心を高めるように配慮されている。また、数と計算では札幌市の人口を取り上げている。 ○ 内容の排列については、小数第二位までの小数の乗法の学習の後に、小数第二位までの小数の除法の学習を取り扱い、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第5学年の総ページ数は259ページで、前回より約11パーセント増となっている。 					
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「考えよう伝えよう」のページで式や図を使って児童の考え方を示すなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 巻末に「補充問題」のページを掲載し、1人で練習や答え合わせをするなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○ 巻頭に教科書の使い方を示す「新しい算数を使って学習しよう」のページを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。 					
その他						

算数科調査研究報告書

書名 観点	大日本図書 新版たのしい算数 1 3 3 2 3 3 3 3 3 4 3 3 5 3 3 6 3 3
取 扱 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数と計算については、水槽に入れる金魚の数を数えたり、絵を見てひき算のお話を作ったりする活動を通して、整数の加法や減法の意味、その計算の仕方を理解できるようになっている。また、乗り物に乗っている人数を求めたり、求める式を立てたりする活動を通して、整数の加法や減法の意味、整数の乗法の意味、その計算の仕方を理解できるようになっている。 ○ 量と測定については、図形を移動して面積を求めたり、長方形と平行四辺形の面積を比べたりする活動や、直方体と角柱の体積の求め方を比べたり、底面に着目して体積を求めたりする活動を通して、三角形や平行四辺形などの面積や角柱や円柱の体積の求め方を理解できるようになっている。 ○ 図形については、いくつかの三角形を仲間分けしたり、コンパスを使ってかいたりする活動や、いくつかの四角形を仲間分けしたり、平行四辺形をかいたりする活動を通して、二等辺三角形や正三角形、及び平行四辺形やひし形、台形の性質について理解できるようになっている。 ○ 数量関係については、リンゴの取れ高をグラフから読み取ったり、人口をグラフに表したりする活動や、ソフトボール投げの記録を表にまとめたり、柱状グラフに表したりする活動を通して、円グラフや帯グラフの読み方やかき方、資料の平均や柱状グラフについて理解できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「何本になるのかな」や「もっと算数たまたまばこ」のページを設け、補充的・発展的な学習ができるように工夫されている。例えば、遊園地に咲いている花の数について、簡単な3位数の加法や減法を扱うなどの補充的な学習、直角三角形について、面積の求め方を扱うなどの発展的な学習が取り扱われている。
内 容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成については、鉛筆の数を数える問題やお菓子やかざりの数の違いを求める問題など、児童の生活経験や興味・関心を高めるように配慮されている。また、折れ線グラフに表す問題では札幌市の人口を取り上げている。 ○ 内容の排列については、小数の乗法や除法の学習の後に、異分母の分数の加法や減法の学習を取り扱い、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第5学年の総ページ数は247ページで、前回とほぼ同様となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「算数たまたまばこ」や「わくわく算数ミュージアム」で興味・関心を高める教材や話題を取り上げるなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ ノートの書き方の例を示した「算数の学び方」や単元末に「復習」を位置付けるなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○ 「まとめの練習」や「教科書にでてきた大切なことがら」のページで学習の振り返りや重要事項を示すなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

算数科調査研究報告書

書名 観点	学校図書 みんなと学ぶ小学校算数 1 3 4 2 3 4 3 3 4 4 3 4 5 3 4 6 3 4 2 3 5 3 3 5 4 3 5 6 3 5
取 扱 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数と計算については、花瓶に入れる花の数を数えたり、かごに残ったリンゴの数を考えたりする活動を通して、整数の加法や減法の意味、その計算の仕方を理解できるようになっている。また、乗り物に乗っている人数を求めたり、一円玉を積み重ねて九九の表を作ったりする活動を通して、整数の乗法の意味、その計算の仕方を理解できるようになっている。 ○ 量と測定については、図形を分割して既習の図形に表したり、考え方の相違点を見付けたりする活動や、高さ1cmの四角柱の体積と底面積を比べたり、紙の円を積み重ねて作った体積を調べたりする活動を通して、三角形や平行四辺形などの面積や、角柱や円柱の体積の求め方を理解できるようになっている。 ○ 図形については、いろいろな長さのストローで三角形を作ったり、いくつかの三角形を仲間分けしたりする活動や、地図記号から平行な直線を見付ける活動を通して、二等辺三角形や正三角形及び平行四辺形やひし形、台形の性質について理解できるようになっている。 ○ 数量関係については、米の収穫量をグラフに表したり、交通事故の原因別人数を調べたりする活動や、ソフトボール投げの記録の散らばりの様子を比べる活動を通して、円グラフや帯グラフの読み方やかき方、資料の平均や柱状グラフについて理解できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「ふくしゅう1」や「いろいろなわり算」のページを設け、補充的・発展的な学習ができるように工夫されている。例えば、グラウンドを走った周回数について、棒グラフの表し方を扱うなどの補充的な学習、除法の筆算について、外国の除法の仕方を扱うなどの発展的な学習が取り扱われている。
内 容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成については、動物の絵を見て数を比べる問題や、果物の数を求める問題など、児童の生活経験や興味・関心を高めるように配慮されている。また、人口密度を調べる問題では北海道の人口や面積を取り上げている。 ○ 内容の排列については、小数の乗法や除法の学習の後に、分数の加法や減法、分数の乗法や除法の学習を取り扱い、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第5学年の総ページ数は290ページで、前回より約5パーセント増となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「算数探検隊」のページで、身近な事象や教材を写真で紹介するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 「ノート名人になろう」のページで、ノートのまとめ方を示すなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○ 「力だめし」のページで、問題の趣旨を確認して振り返る自己評価欄を設けるなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

算数科調査研究報告書

書名 観点	教育出版 小学算数					
	136	236	336	436	536	636
	237		337	437		
取 扱 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数と計算については、食べ物の個数を加える場面を考えたり、動物の数が減る場面を考えたりする活動を通して、整数の加法や減法の意味、その計算の仕方を理解できるようになっている。また、乗り物に乗っている人数を求めたり、おはじきを使ってかけ算を表したりする活動を通して、整数の乗法の意味、その計算の仕方を理解できるようになっている。 ○ 量と測定については、図形を移動して既習の図形にしたり、2つの図形を合わせて面積を考えたりする活動や厚みのあるいくつかのメモ帳を比較したり、四角柱の体積の求め方を考えたりする活動を通して、三角形や平行四辺形などの面積や角柱や円柱の体積の求め方を理解できるようになっている。 ○ 図形については、ストローで作った三角形を分類したり、コンパスで三角形をかいたりする活動や、平行四辺形の特徴を調べたり、コンパスを使ってひし形をかいたりする活動を通して、二等辺三角形や正三角形及び平行四辺形やひし形、台形の性質について理解できるようになっている。 ○ 数量関係については、リンゴの出荷量をグラフに表したり、学校の数の割合を調べたりする活動や、ソフトボール投げの記録を比べたり、握力測定の記録を柱状グラフに表したりする活動を通して、円グラフや帯グラフの読み方やかき方、資料の平均や柱状グラフについて理解できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「学習をふり返ろう」や「算数メモ」のページを設け、補充的・発展的な学習ができるように工夫されている。例えば、たし算の筆算について、間違いを説明し正しく計算することを扱うなどの補充的な学習、時計の長針について、針が2回転したときの角度を扱うなどの発展的な学習が取り扱われている。 					
内 容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成については、順番から列の人数を求める問題やデザートの数を表やグラフに表す問題など、児童の生活経験や興味・関心を高めるように配慮されている。また、人口密度を求める問題では札幌市の人口を取り上げている。 ○ 内容の排列については、小数の乗法や除法の学習の後に、分数の加法や減法の意味や計算の仕方を理解する学習を取り扱い、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第5学年の総ページ数は274ページで、前回より約1パーセント増となっている。 					
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャラクターで考えを示したり、「広がる算数」で、発展的・総合的な見方を育てるコラムを掲載したりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ レベル別問題を設定した「ステップアップ算数」や前学年までのまとめを示した「学びのマップ」など、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○ 表紙の裏に当該学年の学習内容に関連のある建造物や風景などを掲載するとともに、目次に既習の学習内容との関連を示すなど、使用上の便宜が図られている。 					
その他						

算数科調査研究報告書

書名 観点	啓林館 わくわく算数 1 3 8 2 3 8 3 3 8 4 3 8 5 3 8 6 3 8 2 3 9 3 3 9 4 3 9
取 扱 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数と計算については、絵を見てたし算になる話を作ったり、色の違う花の本数の差を考えたりする活動を通して、整数の加法や減法の意味とその計算の仕方を理解できるようになっている。また、座っている子どもの人数を求めたり、かけ算となる問題カードを作成したりする活動を通して、整数の乗法の意味とその計算の仕方を理解できるようになっている。 ○ 量と測定については、図形を写し取って比べたり、図形を分割して面積を求めたりする活動や、直方体の体積を利用して角柱の体積を求めたり、体積の求め方の公式を考えたりする活動を通して、三角形や平行四辺形などの面積や角柱や円柱の体積の求め方を理解できるようになっている。 ○ 図形については、いくつかの三角形の共通点を見つけて仲間分けしたり、点をつないで四角形を作ったりする活動や、コンパスを使ってかく活動を通して、二等辺三角形や正三角形及び平行四辺形やひし形、台形の性質について理解できるようになっている。 ○ 数量関係については、農産物の収穫量をグラフに表したり、空き缶の個数の割合を調べたりする活動や、ボール投げの結果をグラフに表したり、男女別人口の割合を読み取ったりする活動を通して、円グラフや帯グラフの読み方やかき方、資料の平均や柱状グラフについて理解できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「準備運動」や「学びをいかそう」のページを設け、補充的・発展的な学習ができるように工夫されている。例えば、クリをいくつかの皿に分ける場合について、除法を使う場面を扱うなどの補充的な学習、時計の長針について、回転する角度の求め方を扱うなどの発展的な学習が取り扱われている。
内 容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成については、標識の数を答える問題やペンや鉛筆の長さを比べる問題など、児童の生活経験や興味・関心を高めるように配慮されている。また、概数や割合の問題で、北海道や都市の人口、面積を取り上げている。 ○ 内容の排列については、小数の乗法や除法の学習の後に、異分母分数の加法や減法、整数と分数の乗法や除法の学習を取り扱い、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第5学年で総ページが277ページで、前回よりも約4パーセント増となっている。
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「発見算数島」のページで児童が興味・関心に応じて問題に取り組めるようにするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 新しい単元の最初に「準備」があったり、複数の考え方を取り上げたりするなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○ 巻頭の「算数のとびら」で教科書の使い方や学習の進め方を掲載し、巻末の「まとめ」で学習内容の要点を押さえるなど、使用上の便宜が図られている。
その他	

算数科調査研究報告書

書名 観点	日本文教出版 小学算数					
	140	240	340	440	540	640
		241	341	441	541	641
取 扱 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数と計算については、水槽に入れる金魚の数を求めたり、残った果物の数を数えたりする活動を通して、整数の加法や減法の意味とその計算の仕方を理解できるようになっている。また、乗り物に乗っている人数を調べたり、鉛筆を同じ本数ずつ配る場面を考えたりする活動を通して、整数の乗法の意味とその計算の仕方を理解できるようになっている。 ○ 量と測定については、平行四辺形を切り貼りしたり、三角形を等積変形するようにかいたりする活動や、体積が一番大きい立体を見付けたり、身の回りにあるもののおよその体積を考えたりする活動を通して、三角形や平行四辺形の面積や、角柱や円柱の体積の求め方を理解できるようになっている。 ○ 図形については、いろいろな長さのストローを用いて三角形を作ったり、三角形を仲間分けしたりする活動や、いろいろな形の四角形を作ったり、身の回りの四角形を探したりする活動を通して、二等辺三角形や正三角形及び平行四辺形やひし形、台形の性質について理解できるようになっている。 ○ 数量関係については、都道府県別果物の生産量の割合を調べたり、日本の地方別面積を調べたりする活動や、ソフトボール投げの記録を比べたり、50m走の記録をグラフに表したりする活動を通して、円グラフや帯グラフの読み方やかき方、資料の平均や柱状グラフについて理解できるようになっている。 ○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、「選んで学ぼうぐっとチャレンジ」「いち・に・算活」のページを設け、補充的・発展的な学習ができるよう工夫されている。例えば、次の単元について、学習に必要な知識や技能の定着を図る補充的な学習、単元で学習した内容について活用する発展的な学習が取り扱われている。 					
内 容 の 構 成 排 列 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成については、並んでいる果物の順番を答える問題など児童の生活経験や興味・関心を高めるように配慮されている。また、大きな数の導入に北海道産ばれいしょ、たまねぎの数が取り上げられている。 ○ 内容の排列については、小数の乗法や除法の学習の後に、分数の加法や減法の意味や計算の工夫を理解する学習を取り扱い、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。 ○ 内容の分量については、第5学年の総ページは304ページで、前回より約17パーセント増となっている。 					
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「次の学習のために」や「いち・に・算活」のページで既習内容の復習や活動の手順を示すなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 学習に関係のあるコラムやゲーム的要素のある練習問題を取り上げるなど、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫がなされている。 ○ 「学び方ガイド」や「算数で使いたいことば・考え方」で発表手順や方法の例など、使用上の便宜が図られている。 					
その他						